

大阪私学教育情報化研究会の取組

プロジェクト型学習、授業公開キャラバンから管理職研修まで またその仕掛け

大阪私学教育情報化研究会 米田 謙三(大阪羽衣学園高等学校)

大阪府下の私立学校では、情報関連の施設・設備、そしてカリキュラム等において一段と充実を力を入れている学校が増えてきたようで心強く感じます。今後は、従来のように公立、私学といった区別なく、益々生き残りをかけた競争が激しくなってくると考えられます。社会の価値観の多様化にみられるように、様々な価値観を特徴にかかげる学校が続々と現れ、お互いに切磋琢磨する状況が生まれると思われま

す。大阪私学教育情報化研究会(昭和61年に発足「大阪私学教育工学研究会」)は、そのような状況から、教育の情報化はもちろんのこと、学校の情報化と特色化に向けた取り組みが各校で実践され生徒達の「表現力」や「考える力」が少しでも育成できるようになればと考え名称を変更しました。そして授業方法や教育環境の改善をはじめ、先生方の問題解決の糸口として本研究会が、微力ではありますが、お役に立てればと考えています。(大阪私学振興教育研究所の下部組織として大阪府に所在する私立中・高等学校に勤務する情報化教育と教科「情報」に関係のある教職員をもって構成されています。)

本研究会は、発足して50年くらいの研究会ではありますが、現在の役員の方には、熱心に研究会等の企画を継続的に立ていただき、毎月1回程度の役員会を行なっております。

大きく分けると3つの取り組みを実施しています。

1. 情報化教育と教科「情報」に関する研究会・講習会・一般の授業の見学や意見交換会等の開催
2. 生徒主体のプロジェクト情報化教育の運営、研究と調査
3. 他の情報化教育研究会及び教科「情報」の研究会・産業界や各機関との連絡および協力
産学連携授業や管理職向け研修会

今回は、特に中心的な取り組みを2つ紹介します。

I ICTプロジェクト。

ICTプロジェクト(International Communication Project)は、『高校生の情報化と国際化に対応できるコミュニケーション能力育成に関する実証研究』とし新しい活動の一つとして2003年度から始まりました。このICTプロジェクトは、教育の情報化を実現するコミュニティを、学校や地域の枠を超えて築き上げてい

るところです。WEBでも絶えず生徒・教師・企業の皆さんに途中報告し、大きな反響をいただきました。このプロジェクトを通じて生徒達のコミュニケーション能力向上とともに、各校の生徒や教員間交流も一層深まりました。いくつかの教員向け研修会にも取り上げられました。

実績：パナソニック教育研究財団の研究助成、じっしょう情報教育資料別冊、日本文教出版 2005 プレゼン甲子園DVD

<http://www.osaka-sigaku.net/ict/index.htm>



II 授業公開キャラバン

教科「情報」と「総合的な学習」だけでなく、各教科における情報化について研究を行っています。本研究会は「情報」関連の授業公開キャラバンを平成13年より実施しています。「情報」関連の授業公開キャラバンとは、情報機器を活用した公開授業を開き、参加教師の間で教科「情報」や、教育の情報化に向けた課題を共有できるコミュニティづくりを図るプロジェクトです。平成13年9月に開始以降、なんと50回の授業が実施され、大阪府を中心に延べ900名程の教員が参加しています。この公開授業の最大のウリは、参加者は単に授業を参観するだけでなく、授業前にはネット上で指導案について議論し、授業後には意見交換会を実施することで、全ての参加者が課題意識を持って取り組めるように工夫されているというところです。

・教員のコミュニティ(わっ)をいかにつくるか?
<「情報」関連の>としたことで、本コミュニティには、情報科だけに限定されない、様々な教科・立場の教員が参加しています。「食生活について考えよう」「ネットdeディベート」「Flashでアニメーション」「情報

伝達の方法と工夫(座学)等それぞれの教科特性を活かした公開授業を誰でも開くことができ、様々な見方・意見を得られるメリットがあります。ただしその反面、学校も課題意識も異なる教員の間では、とりとめのない、まとまらない議論に終始してしまう危険性も考えられます。公開授業については、「焦点化された議論とその成果をどう共有するか?」、意見交換会では、「多くの参加者にとってメリットとなる場をどうコーディネートするか?」についてキャラバンを続ける中で明らかになったことがいくつかあるのです。このプロセスでは、教員自身が、ネットワークを主体的に活用し、情報を発信しあい共有を図る「情報活用能力」が求められます。つまり「このコミュニティに参加し運営に携わること」それ自体も「教員研修としての側面」を十分に備えているのです。

実績：上月情報教育財団の研究助成、学研「NEW 教育とコンピュータ」に連載、日本文教出版 IT・Education 別冊



III 産学連携と管理職研修

他の情報教育関連研究諸団体とも積極的に協力し情報交換をはかっています。

質の高い情報化人材育成が叫ばれる一方、学校教育では日々進展する情報化社会の中で効果的な授業として情報に関する最先端技術や、最新技術の活用現場に触れる機会が少ないのが実情です。産業界や地域社会等と協力しながら、効果的な質の高い情報化人材育成ができる授業実践の支援を行います。そこで 財団法人コンピュータ教育開発センター(CEC)の産学連携事業授業を実施し、ロボット・GIS・携帯電話・3DCGなど最先端技術を学ぶ取り組みも実施しました。東京都高等学校情報科研究会、大阪府高等学校情報科研究会と

も連携。

<http://www.cec.or.jp/nichijishin/jh.html>



また、昨年は、管理職向けに文部科学省委託事業の研修会を私学で最初に実施しました。進め方として参加者を3チームに編成(校長・教頭グループ、教頭・教務入試広報担当担当グループ、教頭・教務入試広報担当グループ)して各グループ共通の話題でディスカッションできるようにしました。また情報化研究会の役員が司会と書記を担当し、活性化を図るようにしました。内容についてはワークシートを活用してすすめ、前半では、特に「問題の意識化・共有、改革のための取り組みと要因」として、学校で現在かかえている問題について意見交換し、次に具体的に取り組みをされている事例から問題の要因を考えました。途中で、具体的な取り組みの実施解決にICT(コンピュータや情報メディア)が活用できている事例を取り入れる可能性を議論しました。後半では、大学の専門の先生に2つの講義を中心に進めていただきました。「教育情報化の目指すもの」のあとで、あなたの学校でも取り入れられそうなことをまとめてもらい発表し、共有する。続く講義「改革のための取り組みと要因」のあと、VISION(解決すべき問題、ゴールのイメージ、解決までの時間)、組織(VISIONの共有化のための工夫、支援体制、管理職の役割)経費(設備的な予算)を個人で考えてもらい討論する。)改革の評価として具体的に講師の先生に、コメントをいただき、より討論を深める研修会となりました。

それぞれの活動記録は、活動報告集やHPでも発表されています。研究会の会員の皆様にはメーリングリストを利用し、手軽に情報交換できる工夫もしています。一人で困っている方にも活用いただいています。他府県でも大阪の私学研究会の研究活動を高く評価していただいているようですが、大阪府の情報教育を更に充実・発展していこうと考えています。

<http://www.osaka-sigaku.net/>

お問い合わせは、osn_info@osaka-sigaku.net

来年は、大阪でお会いしましょう!!

